

ちいきかいぎ れいわがんねんど
地域会議まとめ（令和元年度）

じっしほうほう しない ちいき わ じれいけんとう おこな
実施方法：市内を4地域に分け事例検討を行う

さんかきかん そうだんしえんじぎょうしょ しょう しゃそうだんしえんせんたー きかんそうだんしえんせんたー
参加機関：相談支援事業所、障がい者相談支援センター、基幹相談支援センター

じっしきかん れいわがんねん がつ から がつ かいじっし
実施期間：令和元年8月～10月 8回実施

じれいけんとうさんかになすう にん にん
事例検討参加人数：11人～14人

No	センター名	項目	内容
1	内本町	概要	60代女性。身体障がいあり。母（80代）と二人暮らし。 65歳に迎えるにあたり、介護保険サービスへの移行への準備について検討を行う。
		解決の ための 意見	・介護保険のメリットを伝える。本人の希望に近いデイケアの見学等を行う。 ・今後のタイムスケジュールを作り、本人に提示する。 ・家族介護が望めなくなった時など、10年後のイメージを具体的に伝える。一人暮らしのイメージを具体的に作る。 ・家族の支援内容や介護力等、現状の確認を行う。 ・知っている事業所の利用でヘルパーや人と関わることへの抵抗をなくす。
2	内本町	概要	30代の男性。知的障がいあり。性的な興味が強く、トラブルあり。
		解決の ための 意見	・関係者間での方向性の統一が必要。 ・適切な自慰行為に導く対応を行う。自慰行為についてのルールを決めるなど。専門的機関への相談も有効。母との話し合いが必要。主治医との連携必要。 ・こういった時に性行動が出るのか検討を行う。作業等で集中していれば欲求が収まるのであれば、時間の過ごし方を考える必要がある。 ・知的の方への性の本などを利用するなど伝え方を工夫する必要がある。
3	豊津・江坂・南吹田／千里山・佐井寺	概要	60代男性。精神障がいあり。通院介助サービスを拒否し、結局、相談支援専門員が病院に同行している。相談支援専門員としての関わり方を検討。
		解決の ための 意見	・各サービス事業所と連携し、役割分担を行う。 ・訪着やヘルパーのサービス時に訪問し、一緒に本人を説得する（通院介助サービスの利用について）。 ・地域との連携（現状把握のため民生委員との連携）を行う ・本人の病気に対する認識を把握し、健康管理について考える。 ・妹と情報共有をする。 ・本人の意向に沿って自費ヘルパーの対応も考える。
		課題	訪問介護の事業所がない
4	千里山・豊津・江坂・南吹田／佐井寺	概要	20代女性。発達障がい、精神障がいあり。大学卒業後、就職するが、自宅療養後、吹田市に転入する。希死念慮、精神科服薬拒否、医師への信頼が薄い。
		解決の ための 意見	・安定した健康管理のために医療連携が必要。 ・緊急時の対応を考える（状態悪化時の入院とその判断について） ・支援者が家族関係の背景を知る（生活を分けることも）

		意見	- 生活全般の目的や方向性をつくっていく - 就労を前提に生活リズムを整えることが必要。 - 本人の意思決定支援を行う。取捨選択・優先順位をどう考えるか。 - 金銭等管理能力について判断していく。必要であれば支援を行う。 - 関係機関連携での役割分担や、イニシアチブをとる人をきめる
5	片山・岸部	概要	20代女性。知的障がい、自閉傾向あり。4人暮らし。通所や外出などがなかなかできない。
		解決のための意見	- 訪問看護活用。興味を引き出し、一緒に買い物や調理など、幅の広い関りが出来る。また、主治医との連携が可能。 - 関係性を作る為、出来るだけヘルパーさんを固定する。 - 工賃で嵐のCDやコンサートを買う等、目標を作り、生活介護に行けば、良い事があると思えるようにする。 - 支援者で集まり情報共有を行い、今後について検討する。 - 落ち着ける空間を作る。(ジャニーズグッズを置くなど)
6	片山・岸部	概要	20代男性。知的障がい、精神障がいあり。支援の仕方やサービスは母の希望が優先されている。本人の意思決定支援をどのように行つかを検討。
		解決のための意見	- 母の思いに共感し、母との信頼関係を構築する。 - 母の依存・影響が強い場合、物理的距離をとる為にGHを検討。 - ご本人と信頼関係を築いていく。何故特定のヘルパーさんと外出可能かの要因を探る。関わる支援者を増やしていく。 - 自立に向けてショート活用。本人の可能性を探り、「できる」事を増やしていく。その過程で本人の意思を探っていく。
7	亥の子谷／千里ニュータウン	概要	50代女性。知的・精神障がいあり。母（80代）と二人暮らし。母亡き後を見据えた支援のあり方について検討。
		解決のための意見	- 転居し、世帯に金銭的なゆとりが生まれるので、転居支援を優先すること - もひとつの手法。 - 転居について：役割分担の整理（情報提供や転居先探し、荷造り、荷解き、段取りなど含め、誰がどの部分を支援していくのか調整が必要）。 - 今後の見通しを明確にした上で、実際にどれくらいの支援があれば自立した生活が送ることができるのか、方向性を見据えた支援をおこなうことが

			たいせつ 大切。 かんけいきかん れんけい はか どういつ けんかい も せたい しえん おこな ・関係機関が連携を図り、統一した見解を持ち、世帯への支援を行う。 しょーとすてい りよう はは ふたんけいげん はか ・ショートステイも利用しながら母の負担軽減を図る。
		かだい 課題	きぼうじょうけん み あ ぐるーぷ ほーむ ふそく ばしょ・じ き かんきよう 希望条件に見合ったグループホームの不足（場所・時期・環境）。
8	い 亥の子 こたに 谷／千 せんに 里二 にゆー ユー ー タ ウ ン	がいよう 概要	だいじょせい おっと こどもさんにん にん せいしんしょう おっと しょう 30代女性。夫と子供三人の5人ぐらし。精神障がいあり。夫は障がいに りかい まいばんいんしゅ よなか きたく ろうひへき しやっきん ふ 理解がなく、毎晩飲酒し夜中に帰宅。また、浪費壁もあり、借金が増えている。 ほんにん ぼうげん なに しえん る。本人への暴言あり。何から支援すればよいか。
		かいけつ 解決 のた め の いけん 意見	ほんにん い し ほんしん ふ うえ かだい せいり ひつよう もんだい ・本人の意思や本心を踏まえた上で課題を整理することが必要。問題を ぶんせき ほんにん もんだい こども りょういく ぎゃくたい いりよう ひつようせい おっと 分析することで、本人の問題、子どもの療育、虐待、医療の必要性、夫 とのかかわりなど問題が明確化され、それぞれ家児相や基幹、CWなど ひつよう きかん つなぐことができ、やくわりぶんたん かのう 必要な機関につなぐことができ、役割分担も可能となる。 ほんにん しえん けいかくそうだん ひとり もんだい かか こ ・本人を支援する計画相談が一人で問題を抱え込んでしまわないよう、 ほうもんかんご おおく しえんしゃ たいせつ あんしんかん 訪問看護をはじめとし、多くの支援者でかかわることが大切。安心感や じしん も しえん たいせつ 自信を持ってもらえるような支援も大切。